

令和4年度 埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム前期 最終レポート

高橋 愛里

みなさんこんにちは。OSGS3期生の高橋愛里です。早いもので半年間のプログラムが終わり、今回が最後のレポートとなります。寂しい気持ちでいっぱいですが、このプログラムで学んだことを自分で整理すると共に、みなさんにもお伝えできるよう精一杯レポートを書かせていただきます。

1、最終プレゼンテーションについて

半年間、授業で学んだ「ホフステードの6次元モデル」について12月4日に最終プレゼンテーションを行いました。「ホフステードの6次元モデル」とは6つの分野から文化によって価値観がどのように異なるかを数値で表したものです。私とペアのDesireeはその中で「個人主義と集団主義」について発表しました。例えば、100が個人主義、0が集団主義とするとアメリカの数値は91で日本は46です。

プレゼンテーションの準備では、授業で学んだ効果的なスライドの作り方を意識してスライドを作成しました。例えば、文章を全て記載するのではなくキーワードだけを書くこと、図や絵は画面を9分割した時の対角線に配置すること、余白を作ることなどです。授業でMott先生が良い例と悪い例のスライドを見せながら教えてくれました。その時は一目瞭然で間違えないだろうと思っていたのですが、いざ自分がスライドを何枚も作っていると自分が話したい内容を書きすぎてしまい、授業で見た、悪い例になってしまっていました。その時はペアのDesireeとお互い作成したスライドを見ながらそれぞれ修正しました。いかに自分たち（発表者）のためでなく、オーディエンス向けのスライドを作るのが難しいかを体感しました。また、発表のやり方も何度も練習しました。難しい単語が多かったので、ついスクリプトを読んでしまいがちでした。しかし、何度も練習しているうちに話す速度や重要なことを言う前の間の取り方なども意識できるようになりました。本番はとても緊張しましたが、事前準備のおかげでペアと協力しながら堂々と発表することができたと思います。最終プレゼンテーションを通して、プレゼンテーションにおいて事前準備がいかに重要かを学びました。事前準備をきちんと行っているからこそ、本番のハプニングにも備えることができると感じました。

そして、最終プレゼンテーションでは自分たちの発表だけでなく他のメンバーのプレゼンテーションも聞きました。半年間、一緒に活動してきた仲間のプレゼンテーションは具体例が多くあり、とても興味深いものでした。特に印象に残っているのはプレゼンテーションの途中で質問を取り入れたチームのものです。どうしてもプレゼンテーションが長くなるにつれてオーディエンスの興味を引き付けておくのが難しくなるのですが、そのチームは適度に質問を挟んでいたことで飽きることなく最後まで楽しく聞くことができました。

た。今後、英語に限らず長めのプレゼンテーションをするときは私もその手法を取り入れてみようと思いました。

Japan (Uniforms)

- ❖ All is decided for school law
- ❖ Even though students' hair is originally brown
 - they have to change black
- ❖ Job Hunting
 - Black suits
 - Other color is not allowed
- ❖ Women
 - make up style
 - hair style is decided

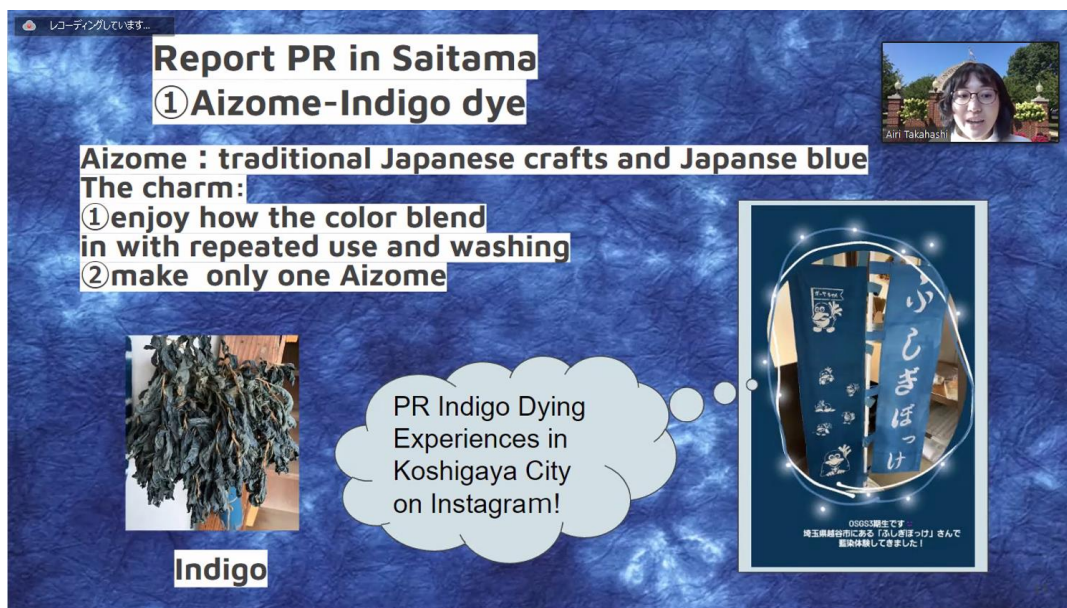


(最終プレゼンテーションで使用したスライドの1枚)

2、成果発表会について

2月12日に英語でオハイオ州・埼玉グローバルスピーカープログラムの最終発表会がありました。埼玉県メンバー5人でこの半年間学んだ「ホフステードの6次元モデル」や埼玉県親善大使の活動について発表しました

成果発表会では初めての試みである参加者も含めたディスカッションがありました。事前に埼玉県職員の小口さんやメンバーと「どのような質問を投げかけたら議論が進みやすいか?」「誰に話を振るべきか?」などを話し合いました。今まで英語のディスカッションを自分たちが主体となり行った経験がなかったのでとても緊張しました。しかし、本番は参加者からも活発に意見が出て、新たな学びがある場となりました。特に、興味深かったのは個人主義だと思っていたアメリカにも集団主義の例があり、またそれをあえて行っていることです。個人主義と集団主義の話でアメリカのスポーツイベントではあえて仲間意識を生み出すために、同じ色の服を着て集団主義の行動をとっているという意見が出ました。この意見は私だけでなく他の参加者も興味があったようで、ディスカッションが終わった後にもアメリカ人、日本人どちらの友人からも意見や質問がありました。ディスカッションのその場だけでなく、それ以降にも考えを深めることができ良かったと思います。



(成果発表会の様子)

3、埼玉県親善大使の活動について

埼玉県親善大使の活動として半年間、私たちは藍染体験と川越観光を行いました。私は藍染体験に参加しました。詳しくは中間レポート②で書いているので興味がある方はぜひ読んでみてください。上記の成果発表会で私は埼玉県親善大使の活動報告と埼玉県のPRを担当しました。活動報告では藍染体験のやり方について紹介しました。成果発表会の参加者の数人が興味を持ってきて、「今度、体験したい」と言ってくれました。藍染体験の良さを少しでも伝えることができ良かったです。また、友人の一人が藍染の手ぬぐいが欲しいと連絡してくれたので、また藍染体験に行って友人にプレゼントするために作ろうと思います。

また、埼玉県のPRをするためにプレゼンテーションの準備をしているときに自分が埼玉県出身でありながら、埼玉県についてあまり知らないことに気づきました。埼玉県のメンバーの一人が話していて印象的だった言葉なのですが、「海外の人と関わる時は一人ひとりが日本代表であり埼玉県代表です」という言葉です。OSGSプログラム3期生の埼玉県親善大使の任期は終了しましたが、これからも埼玉県の代表として海外の方々に紹介できるように自分自身、埼玉県の魅力を探し続けていきたいと思っています。まずは、プレゼンテーションで紹介した埼玉県の冬の景色である秩父の氷柱を今週末、見に行こうと思います。そしてその写真を埼玉県のメンバーやペアに共有したいです。



(埼玉県のPRのスライド)

4、プログラムを通して学んだこと、今後どのように活かしていくか

私が OSGS プログラムを通して学んだことは3つあります。

1つ目は、英語を話す上で重要な心構えとして、失敗を恐れず挑戦するという事です。最初は英語を話す時に、正しく話すことや発音よく話すことに気を取られていました。しかし、重要なのは正しい英語を話すことではなく、何を伝えるかだと授業で学びました。授業では常にみんながマイクをオンにしている、気になったことがあると質問やコメントができる環境でした。またその質問やコメントに対しても Mott 先生はいつでも優しく答えてくれました。その環境のおかげで以前よりも気兼ねなく、英語で自分の言いたいことを伝えられるようになりました。

今後も英語でコミュニケーションを取るときは積極的に自分から意見を発信していきたいです。また、Mott 先生や埼玉県のメンバーのように話す人が話しやすい環境が作れるように相手の話をまずはよく聞くようにします。

2つ目は文化は多様であるということです。授業の大半で「ホフステードの6次元モデル」を使って文化の違いを学んできました。今まで漠然と文化が違うから異なる価値観だと思っていたものが、指標があることでどの価値観がどのように違うかを知ることができました。大まかにその国のことを知るときに役立つ知識でした。

しかし、この指標だけでは文化を測ることができないことも学びました。私は「個人主義と集団主義」について調べたのですが、アメリカは個人主義の特徴が多く、一方で日本は集団主義だとわかりました。しかし、国ごとに特徴はあっても例外があったり、個人では違うことを学びました。例えば、私のペアの Desiree の家族は集団主義の考えがあり、

家族のイベントを個人の用事より大事にすると話してくれました。この国出身の人だからこのように考えるだろうと決めつけるのではなく、その人自身の価値観を知りたいです。

3つ目は英語学習に終わりはないということです。今回の埼玉県参加者のみなさんは英語力が高く、多くの刺激を受けました。仕事で英語を話す機会もあり、日常会話は問題なくできると思っていましたが、今回のプログラムでは咄嗟に日本の文化に関する具体例を求められることも多く、苦戦しました。いつも業務で話す英語とは違い、少し専門的なことを話す力がついたと思います。また、英語の語彙力も向上しました。毎回の授業で2週間の出来事を話すのですが、毎回「良かった」「楽しかった」のような感想しか英語で思いつかなかったので形容詞を調べて語彙を増やす努力をしていました。それ以外でも他のメンバーや先生が使っていた言い回しはメモして次の時に使うようにしていました。今後も自分が話したいことを問題なく話せるように日々、勉強し続けたいと思います。

4. 終わりに

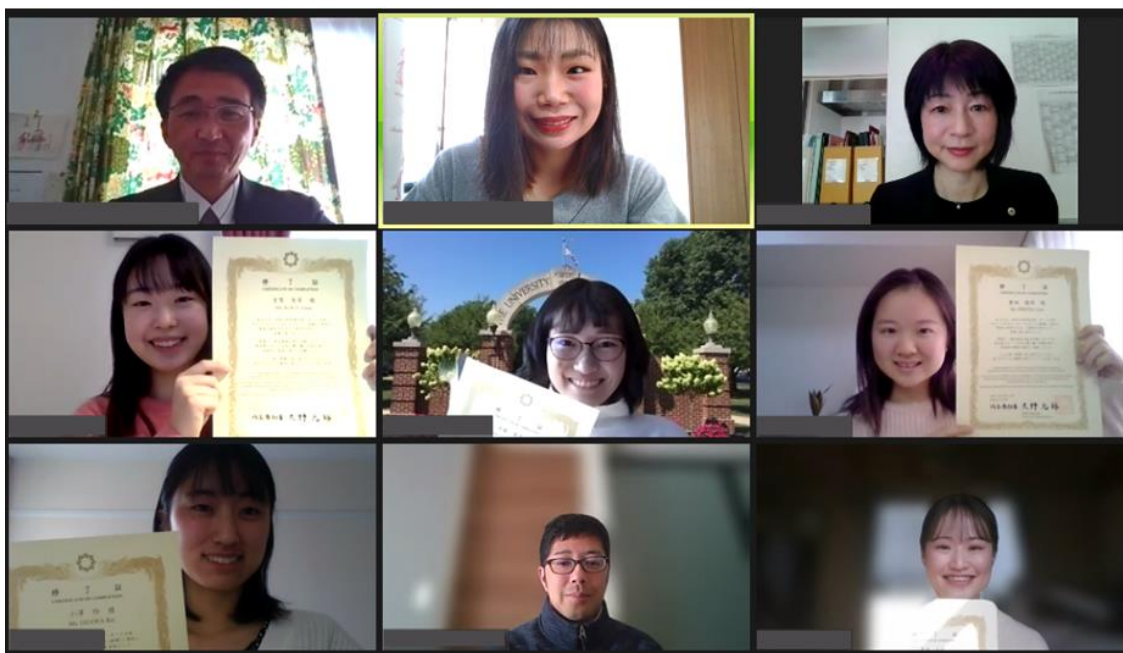
本プログラムに関わってくださった全ての方に感謝しています。半年間、ユーモアたっぷりに教えていただいた Mott 先生。先生の授業は毎回面白く、学びが多かったです。ただ話を聞いて終わりではなく、自分の考えを発表する機会が多くプログラムの目的でもある「英語で自分の考えを発信する力」を身につけることができました。

また、様々な場面で助けてくれたペアの Desiree にも感謝しています。今後もそれぞれの文化について話したり、雑談したりする関係を続けていきたいです。いつか日本かアメリカで対面で会えるのを楽しみにしています。

そして、埼玉県の4人のメンバーとのつながりも OSGS プログラムで得た貴重なものでした。年齢もバラバラでしたが、全員が英語学習に非常に意欲的で授業中も積極的に意見を交換しました。このメンバーと一緒にいたからこそ私も多くのことを学び、吸収できたと感じています。本プログラムで学んだことを活かすために英語で話すオンラインの集まりを作ったので、OSGS プログラムが終わった後も関係を続けられたら嬉しいです。

最後にこのような貴重な学びの機会を提供していただいた埼玉県に感謝申し上げます。小口さんをはじめ国際課の職員の方が、授業と一緒に参加し、日々励まし、アドバイスをしてくださいました。通常のプログラムではあまり関わる機会のない運営側と密なコミュニケーションを取ることができるのも OSGS プログラムの魅力だと感じました。特に印象に残っているのは成果発表会の時に私たちが提出したスライドを小口さんが褒めてくださったことです。授業で学んだスライドの作り方は間違っていなかったのだと再確認でき、自信をもって本番に臨むことができました。私たちが半年間、多くの学びを得ることができたのは埼玉県国際課のみなさまに支えていただいたからです。本当にありがとうございました。

ここまで読んでくださった、これから OSGS プログラムに参加するか迷っているみなさまへ。ぜひ少しでも興味があれば挑戦してみてください。OSGS プログラムはオンラインでありながら英語力を伸ばすことができるだけでなく、自分の考えを発信する力、そして様々な方との新しい出会いがあります。いつか OSGS プログラム卒業生としてみなさまとお話できるのを楽しみにしております。ここまでありがとうございました。



(修了式の様子)